

平成 26 年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分 : 図書館活動における功績
2. 対象者 : 島根大学附属図書館全国遺跡資料リポジトリ推進会議事務局
3. 件名 : 島根大学附属図書館が代表機関として構築・推進している「全国遺跡資料リポジトリ」プロジェクト事業の事務局としての活動
4. 結果 : 採択
5. 理由 : 本件は、島根大学附属図書館が「全国遺跡資料リポジトリ」プロジェクト事業において、代表機関の事務局として、考古学研究分野の教育・研究環境向上に取り組んだ研究支援活動である。

全国遺跡資料リポジトリ推進会議事務局として、国立情報学研究所の CSI 事業や科学研究費補助金（研究成果公開促進費）による事業をとりまとめ、全国的に参加協力大学を募ってコンテンツ充実を図り、現在は 20 大学、21 府県域に収録範囲を広げ、約 14,000 冊の発掘調査報告書を公開している。また、日本情報考古学会やデジタルリポジトリ連合との連携による「全国遺跡資料リポジトリ・シンポジウム」、日本考古学協会総会での遺跡資料リポジトリ・セッション等を開催している。さらに国立文化財機構奈良文化財研究所と連携して、自治体等の報告書発行機関が直接参加するという「広域モデル」の実証実験も行っている。

島根大学が、事務局として推進した、これら一連の活動は、次の点で「国立大学図書館協会賞選考基準」第 4 条第 1 項第 3 号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。

全国の大学図書館や自治体等と積極的に協力し、「全国遺跡資料リポジトリ」のコンテンツ充実を図り、灰色文献である遺跡調査報告書の全文公開による可視化に努めた。また、国立文化財機構奈良文化財研究所と連携した「広域モデル」を開発し、共同実験を進めていることに加えて、シンポジウム等の開催や学協会での発表による研究成果の広報・拡大にも取り組み、考古学研究の教育・研究環境向上に尽力し、多大な貢献を果たしており、図書館活動の特定分野において改善・前進を図るものとして評価できる。また、事務局として、本プロジェクトにおける数々の事業展開・とりまとめを進めた点において、図書館員が主体的な役割を担っており、図書館と図書館員の役割について広く社会の認識を高めたものと評価できるものである。

奈良文化財研究所との実証実験は「広域モデル」の発展型も予定されているので、本事業の拡大・発展により、さらなる考古学研究の教育・研究環境向上に尽力されることを願うものである。